

国語

➡ 1・2年生 | 「好きな本を知らせよう」

「読書ゆうびん」

1. 活用としての“読書ゆうびん”

“読書ゆうびん”は、学校全体の読書活動の一環として、図書委員会が活躍して、学校中の児童に葉書が届くような場合もあれば、たとえば2年生が自分の好きな本を紹介する葉書を出すと、5年生から返事が来て、コメントやお薦めの本が書いてある、というような交流活動の場合もあります。

決まったやり方があるわけではありませんから、ここでは、学級の中で、あるいは学年内で行う国語科の“読書ゆうびん”を考えてみたいと思います。

どのような力を活用するのかというと、次の2つの基礎・基本の力です。

○書くこと

書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。〈新学習指導要領 書くこと(1)アより〉

○読むこと

楽しんだり知識を得たりするために、本を選んで読むこと。〈新学習指導要領 読むこと(1)カより〉

上記の1文にわざわざ下線を引いたのは、必ず教師が把握しておく必要があるからです。曖昧な指示ではただの郵便ごっこでしかなく、力はつかないからです。

2. 郵便が届くよ

2つの力は、それぞれ「書くこと」「読むこと」の学習で、年間を通して習得していく力です。習得しては活用し、また習得して…ということですね。

では実際に、読書につなげた学習で考えます。

①来週、読書ゆうびんをするよ。友だちに知らせたい本を選んでみよう。

たった1冊を決めるだけなのですが、ポイントは選ぶ理由にあります。なぜその本を紹介したいのかをよく考えさせることは、低学年なりに、自分はどこが楽しいと思うのか、どのようなことを知るのが好きなのかを見つめることになります。「来週」とあるのは、考える時間を確保してあげるためです。

②書くことを決めよう。そして、先生が用意した葉書と便箋の中から自分に合うものを選ぼう。

下書きをします。それぞれの子どもにとって、「書こうとする題材に必要な事柄」は何でしょうか。「何が書きたい?」と子どもたちに聞きながら、うまく板書していきます。ここが面白いよ、こんなことがわかるよ、好きな部分はここだよ、この本が楽しい理由、友だちにも読んでほしい理由、などが挙がってくるでしょう。その中から自分で決めさせます。

葉書や便箋は、学級の子どもの喜びそうなデザインで何種類か用意します。「デザイン」と言いましたが、ここが実は個に応じた支援になっていて、マスか行か、分量、郵便の形式などを、自分の学力と意欲に応じて選べるようにするのです。

③清書して相手に届けよう。そして、友だちが紹介してくれた本を読んでみよう。

2つの力さえ押さえられていれば、あとは楽しく自由に仕上げていきます。届ける友だちの決め方は、出席番号など、機械的なものがよいかもしれません。

3. 自分で決める

題材も形式も、可能な限り自分で選ばせます。なぜならそれが「活用」だからです。もし失敗したら、そこが新たな習得のチャンスになります。